

2017年度（平成29年度）

研究部門名 化学研究部門

講座名 基盤物質化学講座

教員名 加納 博文

電子メール kanoh 理 faculty.chiba-u.jp

※メール送信の際は、「理」を半角@に変更してください。

(1) 研究論文などのリスト（印刷中を含む）

	著者・発表者等	タイトル	発表雑誌・会合等	巻・号	頁	発行・発表年等	掲載論文のDOI（付与されている場合）
(1)	加納博文	第1節 湿潤下において効率的な二酸化炭素吸蔵特性をもつ金属炭酸塩固体の開発	CO ₂ 削減、省エネに関する新技術、採用事例、規制対応：第2章 CO ₂ の分離・回収、貯留技術について（技術情報協会）		pp. 17-28	2017	
(2)	H. Luo, H. Kanoh	Fundamentals in CO ₂ capture of Na ₂ CO ₃ under a moist condition	J. Energy Chem.	26	pp. 972-983	2017	http://dx.doi.org/10.1016/j.jechem.2017.08.005
(3)	T. Okuno, S. Thuermer, H. Kanoh	Nanostructured silicon ferromagnet collected by a permanent neodymium magnet	Chem. Commun.	53	pp. 12882-12885	2017	DOI: 10.1039/c7cc07372k
(4)	233. L. Chen, T. Watanabe, H. Kanoh, K. Hata, T. Ohba	Cooperative CO ₂ adsorption promotes high CO ₂ adsorption density over wide optimal nanopore range	Ads. Sci. Technol.	36	pp. 625-639	2018	DOI: 10.1177/0263617417713573

(2) 卒業研究、大学院修士および博士論文修了指導人数

- ・卒業研究 4 名
- ・大学院修士 3 名
- ・大学院博士 0 名

(3) 教育業績 (自己申告、テキストの作成など、授業の工夫など)

(4) 国際会議出席と招待リスト

- ・ The 11th International Symposium on the Characterization of Porous Solids (COPS-XI), フランス, 2017年5月14-17日, Change in Relaxation Times of ¹H-NMR accompanied by a Double-Step Gate Opening of an Elastic Layered MOF (ELM-11)

(5) 新聞や雑誌等で報道された研究成果等 (報道媒体, 報道年月日, 報道内容等)

(6) 国際並びに国内学会での受賞 (賞名, その内容, 受賞理由等)

(7) 国際共同研究 (共同研究名, 研究内容等)

(8) 地域・社会と連携した教育・研究活動, 学会、国、県などへの協力, など

- 日本化学会 コロイドおよび界面化学部会 部会長
- 日本吸着学会 会長
- 炭素材料学会 運営委員
- ヨウ素学会 副会長
- 文部科学省SSH千葉市立千葉高等学校 運営指導員
- 文部科学省SSH千葉市立千葉高等学校 高校生実験担当
- 放送大学面接授業担当講師

(9) 特許 (発明者名, 発明の名称, 出願日, 出願番号, 整理番号等) (現時点で公表できるもののみ)

整理番号	出願番号	出願日	発明の名称	発明者名
P17-010	特願 2017-168246	2017年 9月1日	磁性半導体材料の製造方法及び半導体材料磁性化液	加納博文、 高松智昭